



2027年3月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

2026年8月3日

上場会社名 株式会社あじかん 上場取引所 東
 コード番号 2907 URL <https://www.ahjikan.co.jp/>
 代表者 (役職名) 代表取締役 社長執行役員 (氏名) 足利 直純
 問合せ先責任者 (役職名) 経営管理部長 (氏名) 森屋敷 登 TEL 082-277-7011
 配当支払開始予定日 —
 決算補足説明資料作成の有無： 無
 決算説明会開催の有無： 無

(百万円未満切捨て)

1. 2027年3月期第1四半期の連結業績（2026年4月1日～2026年6月30日）

(1) 連結経営成績（累計）

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2027年3月期第1四半期	12,540	3.6	291	—	388	—	259	—
2026年3月期第1四半期	12,101	△0.6	△137	—	△124	—	△56	—

(注) 包括利益 2027年3月期第1四半期 389百万円 (—%) 2026年3月期第1四半期 △148百万円 (—%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2027年3月期第1四半期	34.70	—
2026年3月期第1四半期	△7.41	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
2027年3月期第1四半期	28,393	18,302	64.5	2,445.13
2026年3月期	27,158	18,302	67.4	2,445.06

(参考) 自己資本 2027年3月期第1四半期 18,302百万円 2026年3月期 18,302百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2026年3月期	—	0.00	—	52.00	52.00
2027年3月期	—	—	—	—	—
2027年3月期（予想）	—	0.00	—	58.00	58.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無： 無

3. 2027年3月期の連結業績予想（2026年4月1日～2027年3月31日）

(%表示は、通期は対前期、四半期は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
第2四半期（累計）	26,000	4.2	550	261.7	650	149.5	430	139.1	57.44
通期	54,500	6.0	1,500	17.2	1,700	3.5	1,150	3.5	153.63

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無： 有

連結業績の修正については、本日（2026年8月3日）に公表いたしました「業績予想の修正に関するお知らせ」をご覧ください。

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における連結範囲の重要な変更： 無

新規 ー社 (社名) ー、除外 ー社 (社名) ー

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用： 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無

② ①以外の会計方針の変更 : 無

③ 会計上の見積りの変更 : 無

④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数 (普通株式)

① 期末発行済株式数 (自己株式を含む)

2027年3月期1Q	7,700,000株	2026年3月期	7,700,000株
2027年3月期1Q	214,553株	2026年3月期	214,553株
2027年3月期1Q	7,485,447株	2026年3月期1Q	7,610,947株

② 期末自己株式数

③ 期中平均株式数 (四半期累計)

※ 添付される四半期連結財務諸表に対する公認会計士又は監査法人によるレビュー： 無

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

(将来に関する記述等についてのご注意)

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により予想数値と大きく異なる可能性があります。なお、業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料P.3「1. 経営成績等の概況 (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 経営成績等の概況	2
(1) 当四半期の経営成績の概況	2
(2) 当四半期の財政状態の概況	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
四半期連結損益計算書	6
四半期連結包括利益計算書	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(四半期連結キャッシュ・フロー計算書に関する注記)	8
(セグメント情報等の注記)	8

1. 経営成績等の概況

(1) 当四半期の経営成績の概況

当第1四半期連結累計期間における我が国経済は、雇用・所得環境の改善を背景に、景気は緩やかな回復基調で推移いたしました。個人消費や輸出には持ち直しの動きがみられたものの、中東情勢の影響や為替相場を含む金融資本市場の変動、物価上昇の継続などにより、景気の先行きは依然として不透明な状況で推移いたしました。

食品業界におきましては、原材料価格やエネルギー価格、物流費、人件費などの各種コストが高止まりする厳しい事業環境が続きました。加えて、消費者の節約志向や価格改定の影響などにより、市場環境は引き続き厳しい状況で推移いたしました。

このような状況の中、当社グループは、「“おやくだち”の精神でお客さまや取引先、株主、社会へ貢献し、社員がいきいきと働く風土づくりと安定した収益構造および価値創造ビジネスの推進により、“選ばれる企業”として持続的に成長していく」ことを基本方針とする第13次中期経営計画の最終年度として、第一に「収益構造改革の完遂」、第二に「業務用事業の質的成長と拡大」、第三に「ヘルスフード事業、海外事業の成長拡大」、第四に「ごぼう事業、市販事業の新たな価値の創造」、第五に「経営品質の向上」を重点施策とした取り組みを展開してまいりました。

この結果、当第1四半期連結累計期間の売上高は12,540百万円（前年同四半期比3.6%増加）となり、前年同四半期実績を上回りました。利益面につきましては、当社の主要原材料である鶏卵価格が前年同四半期をやや下回ったものの、依然として高い水準で推移したことに加え、人件費や物流費の上昇などもありましたが、営業利益は291百万円（前年同四半期は営業損失137百万円）となりました。経常利益は、為替差益や持分法による投資利益などにより388百万円（前年同四半期は経常損失124百万円）となり、親会社株主に帰属する四半期純利益は259百万円（前年同四半期は親会社株主に帰属する四半期純損失56百万円）となりました。

報告セグメント別の経営成績は、次のとおりであります。

①業務用食品等

販売面におきましては、前連結会計年度における米や海苔の価格高騰の影響などにより、巻き寿司用具材の需要は伸び悩みましたが、主力製品である玉子焼類を中心にスーパーマーケットや外食産業向けの販売が堅調に推移いたしました。また、インバウンド需要や国内旅行需要を背景に、ビジネスホテル向け販売が拡大いたしました。

海外向け輸出売上高につきましては、北米、オセアニア、香港、シンガポールおよびその他のアジア地域において需要が増加いたしました。加えて、中国子会社およびアメリカ子会社での現地販売も拡大したことから、前年同四半期実績を上回る結果となりました。

生産面におきましては、主要原材料である鶏卵価格が前年同四半期をやや下回る水準で推移したものの、中東情勢の悪化などを背景とした補助材料価格の上昇に加え、人件費や物流費の増加が継続いたしました。

販売費につきましては、人件費や物流費の上昇などにより、前年同四半期に比べ増加いたしました。

なお、2026年5月より一般発売を開始した「あじかんごぼうRESET SOUP」につきましては、7月以降の販売拡大に向け、広告宣伝をはじめとした販売促進の準備を進めてまいりました。

これらの結果、外部顧客への売上高は11,481百万円（前年同四半期比4.1%増加）となり、セグメント利益（営業利益）は742百万円（前年同四半期比123.1%増加）となりました。

②ヘルスフード

販売面におきましては、通信販売では、定期顧客数は微増にとどまったものの、売価改定やテレビCMの効果などにより、「焙煎ごぼう茶 ごぼうのおかげW」などの機能性表示食品の販売が伸長したほか、「GOVOCEミルク」などの新製品の発売効果もあり、販売は前年同四半期を上回りました。また、ドラッグストアなどでの市販品では、新製品である「Dr.ナグモのインスリン青汁W」の発売効果などもありましたが、販売は前年同四半期並みにとどまりました。

生産面におきましては、副材料や補助材料が高値で推移したことに加え、人件費や変動費が上昇しましたが、生産高の増加に加え、主要原材料であるごぼうの単価が前年同四半期を下回ったことなどにより、製造原価率は前年同四半期に比べ低下いたしました。

販売費につきましては、戦略的な広告宣伝の実施や人件費、物流費の上昇などにより、前年同四半期に比べ増加いたしました。

これらの結果、販売は前年同四半期を上回ったものの、ポイント制度に係る収益認識の影響により、外部顧客への売上高は950百万円（前年同四半期比0.4%減少）となり、セグメント利益（営業利益）は50百万円（前年同四半期比2.5%減少）となりました。

(2) 当四半期の財政状態の概況

(資産)

当第1四半期連結会計期間末の総資産は、前連結会計年度末に比べ1,235百万円増加し28,393百万円となりました。

流動資産は、前連結会計年度末に比べ418百万円増加し14,222百万円となりました。主な増減要因は、商品及び製品の増加318百万円、現金及び預金の増加255百万円、原材料及び貯蔵品の減少194百万円などであります。

固定資産は、前連結会計年度末に比べ816百万円増加し14,171百万円となりました。これは、減価償却の進行に伴う減少要因もありましたが、土地の取得による増加654百万円などが主な増加要因となったためであります。

(負債)

負債合計は、前連結会計年度末に比べ1,235百万円増加し10,091百万円となりました。

流動負債は、前連結会計年度末に比べ768百万円増加し8,313百万円となりました。主な増加要因は、買掛金の増加306百万円、賞与引当金の増加302百万円、短期借入金の増加200百万円などであります。

固定負債は、前連結会計年度末に比べ466百万円増加し1,777百万円となりました。主な増加要因は、長期借入金の増加508百万円などであります。

なお、当第1四半期連結会計期間末の借入金残高は、前連結会計年度末に比べ673百万円増加し3,831百万円となっております。

(純資産)

純資産合計は、前連結会計年度末に比べ0百万円増加し18,302百万円となりました。主な増減要因は、剰余金の配当による減少389百万円があった一方、親会社株主に帰属する四半期純利益259百万円などの計上が増加要因となったためであります。

この結果、自己資本比率は、前連結会計年度末に比べ2.9ポイント減少し64.5%となりました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

当第1四半期連結累計期間の業績は、売上高につきましては、概ね当初予想どおりで推移しておりますが、鶏卵価格が当初想定をやや下回る水準で推移したことに加え、加工費の低減および諸経費の抑制に努めたことなどにより、営業利益は当初予想を上回る見込みです。

また、為替相場が想定以上に円安で推移したことにより、為替予約に係る時価評価損益の改善に加え、決済差益が拡大し、経常利益および親会社株主に帰属する中間純利益とも当初予想を上回る見込みとなったため、第2四半期(累計)業績予想を修正いたします。

なお、通期の業績予想につきましては、原材料価格や為替相場、株価など先行き不透明な要因が多いことから、2026年5月14日に公表いたしました業績予想に変更はありません。

詳細につきましては、2026年8月3日に公表しました「業績予想の修正に関するお知らせ」をご参照ください。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2026年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2026年6月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	2,336	2,592
売掛金	5,784	5,811
商品及び製品	3,096	3,415
仕掛品	64	83
原材料及び貯蔵品	1,709	1,514
その他	819	811
貸倒引当金	△7	△5
流動資産合計	13,803	14,222
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	3,355	3,313
機械装置及び運搬具（純額）	1,943	1,874
土地	4,155	4,810
リース資産（純額）	172	153
その他（純額）	452	648
有形固定資産合計	10,079	10,799
無形固定資産		
ソフトウェア	603	578
ソフトウェア仮勘定	79	81
リース資産	0	0
その他	3	4
無形固定資産合計	686	664
投資その他の資産		
投資有価証券	1,135	1,207
長期前払費用	3	3
繰延税金資産	12	11
退職給付に係る資産	606	617
その他	856	890
貸倒引当金	△24	△23
投資その他の資産合計	2,588	2,707
固定資産合計	13,354	14,171
資産合計	27,158	28,393

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2026年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2026年6月30日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	2,911	3,218
短期借入金	1,810	2,010
1年内返済予定の長期借入金	507	472
リース債務	77	67
未払法人税等	159	229
賞与引当金	328	631
役員賞与引当金	—	11
契約負債	51	58
その他	1,697	1,613
流動負債合計	7,544	8,313
固定負債		
長期借入金	840	1,349
長期未払金	46	46
リース債務	119	107
資産除去債務	53	53
退職給付に係る負債	20	19
繰延税金負債	209	150
その他	21	51
固定負債合計	1,311	1,777
負債合計	8,855	10,091
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,102	1,102
資本剰余金	1,098	1,098
利益剰余金	15,040	14,910
自己株式	△250	△250
株主資本合計	16,991	16,861
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	508	557
繰延ヘッジ損益	23	21
為替換算調整勘定	779	861
その他の包括利益累計額合計	1,311	1,441
純資産合計	18,302	18,302
負債純資産合計	27,158	28,393

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
(四半期連結損益計算書)

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2025年4月1日 至 2025年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2026年4月1日 至 2026年6月30日)
売上高	12,101	12,540
売上原価	9,285	9,117
売上総利益	2,815	3,422
販売費及び一般管理費	2,953	3,131
営業利益又は営業損失(△)	△137	291
営業外収益		
受取利息	0	0
受取配当金	25	26
持分法による投資利益	33	23
長期為替予約評価益	—	11
為替差益	24	43
その他	13	8
営業外収益合計	96	114
営業外費用		
支払利息	8	12
長期為替予約評価損	70	—
その他	4	4
営業外費用合計	83	17
経常利益又は経常損失(△)	△124	388
特別損失		
固定資産除却損	1	4
特別損失合計	1	4
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失(△)	△125	384
法人税、住民税及び事業税	11	205
法人税等調整額	△80	△80
法人税等合計	△69	124
四半期純利益又は四半期純損失(△)	△56	259
親会社株主に帰属する四半期純利益又は親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	△56	259

(四半期連結包括利益計算書)

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2025年4月1日 至 2025年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2026年4月1日 至 2026年6月30日)
四半期純利益又は四半期純損失(△)	△56	259
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	18	49
繰延ヘッジ損益	△1	△1
為替換算調整勘定	△81	61
持分法適用会社に対する持分相当額	△27	20
その他の包括利益合計	△91	130
四半期包括利益	△148	389
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	△148	389
非支配株主に係る四半期包括利益	—	—

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書に関する注記)

当第1四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第1四半期連結累計期間に係る減価償却費（無形固定資産に係る償却費を含む。）は、次のとおりであります。

	前第1四半期連結累計期間 (自 2025年4月1日 至 2025年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2026年4月1日 至 2026年6月30日)
減価償却費	301百万円	318百万円

(セグメント情報等の注記)

【セグメント情報】

I 前第1四半期連結累計期間（自2025年4月1日 至2025年6月30日）

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント			その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 3
	業務用 食品等	ヘルス フード	計				
売上高							
(1) 外部顧客への売上高	11,031	953	11,985	116	12,101	—	12,101
(2) セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	—	—	185	185	△185	—
計	11,031	953	11,985	302	12,287	△185	12,101
セグメント利益	332	51	384	7	391	△529	△137

(注) 1. 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、その主なものは運輸業であります。

2. セグメント利益の調整額△529百万円には、各報告セグメントに配分していない全社費用△499百万円及び棚卸資産の調整額△30百万円が含まれております。

3. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

該当事項はありません。

(のれんの金額の重要な変動)

該当事項はありません。

(重要な負ののれん発生益)

該当事項はありません。

Ⅱ 当第1四半期連結累計期間（自2026年4月1日 至2026年6月30日）

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント			その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 3
	業務用 食品等	ヘルス フード	計				
売上高							
(1) 外部顧客への売上高	11,481	950	12,432	107	12,540	—	12,540
(2) セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	—	—	201	201	△201	—
計	11,481	950	12,432	309	12,741	△201	12,540
セグメント利益	742	50	792	2	795	△503	291

(注) 1. 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、その主なものは運輸業であります。

2. セグメント利益の調整額△503百万円には、各報告セグメントに配分していない全社費用△519百万円及び棚卸資産の調整額16百万円が含まれております。

3. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

該当事項はありません。

(のれんの金額の重要な変動)

該当事項はありません。

(重要な負ののれん発生益)

該当事項はありません。